

Please join us !

# OSAKA 大阪おおさかの街

— for the city of Osaka —

## EMでよみがえる大阪の河川 大阪市漁業協同組合

阪を代表する風景のひとつ、道頓堀川沿いの遊歩道。以前に比べて美しくなったと感じる方は多いのではないのでしょうか。歩道と水面が近くなって、川に親しみが増しただけでなく、水質浄化が進み、川面がきれいになっていくことが大きいようです。大阪市漁業協同組合では、2001年に水産資源の保護をうたう水産基本法が施行されたのを機に、道頓堀川をはじめ大阪の河川に魚を呼び戻す活動を始めました。日本各地で水質浄化に使われているEM (Effective Microorganisms 有用微生物群) が再生のカギとのこと。代表理事の北村英一郎さんにお話をうかがいました。

### 「やれば出来る！」命宿る川の再生

水都大阪と言われるように、大阪には多くの河川が流れています。古来、栄養豊富な水質で魚も多く、「なにわ」の由来は魚が多く獲れる魚庭（なにわ）だとも言われています。しかし、高度成長期に汚染が進んだこと、また一方で、水処理技術が発達したことによりプランクトンが減少し、漁獲量が減少した時期がありました。

淀川河口域を主漁場に行っている大阪市漁業協同組合は、魚をしても魚以外のモノが網にかかったり、夏場の水中酸素濃度の減少によって稚魚や稚貝が生育せず死んでいく姿を見て、「漁業者は水産物を提供する以上、自然環境を保全する責任もある」との思いから、大阪の河川の浄化にとり組み始めました。平成16年(2004)1月から始め、平成18年(2006)6月にかけての約二年半、道頓堀川をはじめ、淀川、南港釣り園、尻無川に、強い抗酸化機能を持ち、生ゴミを有機肥料に変える働きなどがあるEMを投入しました。EMとは、琉球大学の比嘉照夫教授が開発した乳酸菌、酵母、光合成細菌を主体とする有用微生物群です。土壌改良や、生ゴミの堆肥化などにも使われています。



EM活性液は、ポンプを使って投入されます。  
(道頓堀川にて)

## 水質浄化が進む道頓堀川

道頓堀川での取り組みでは、平成16年1月から二年の間に、計10回、140万6千<sup>リットル</sup>の元気液（EM活性液）と、19万1千個の元気玉（EMだんご）が、日本橋から日吉橋水門の2・3<sup>キロメートル</sup>の区間に投入されました。この区間では、川幅が平均10<sup>メートル</sup>、川底の泥の深さが平均で96・7<sup>センチメートル</sup>だったので、2万2千241立法<sup>メートル</sup>の堆積汚泥（ヘドロ）があった事になります。取り組みを始めて8ヶ月後に測定すると、36・6%の堆積汚泥が減少しており、投入を始めて2年後の平成17年12月には62・4%もの堆積汚泥が減少していました。

大阪市の調査船が底の泥をすくったところほとんどが砂であったとの報告もあります。平成19年（2007）6月19日付の新聞には、「道頓堀川にワカサギ」という興味深い記事が掲載されています。大阪市の魚類生息状況調査で、ワカサギをはじめ、道頓堀川では確認されていなかった6種の魚が見つかったことと、海に近い河口域で低層（泥部）に生息するハゼも確認されたことが書かれています。市環境局は「水質が比較的良好なまま維持されている」との分析結果を出しました。

これらの結果から、EMの密度が高ければ堆積汚泥を減少させる効果が高い事がわかりました。どの程度までEMの密度を上げれば良いかを特定する事が今後の課題です。比嘉教授によると、「河川により条件が異なるので量を特定することは難しい。効果が出るまで使い続けるしかないでしょう」とのこと。前述の期間に使われた費用を計算すると、EM活性液は、1万円/リットル×1406リットル＝1406万円、EMダングは、30円/個×191000個＝573万円となり、合計で1979万円となります。行政と連携してもこれだけの予算を捻出するには限界があり、北村氏は周辺住民の環境への理解と協力が必要と力説します。

かつては豊かな食材を提供してくれていた大阪の河川と海。それは私たちの命を支える源でもありました。日本の食糧自給率が問題視されていますが、本当に良い食材は地元から生まれるという身土不二という言葉もあります。道頓堀川の浄化をきっかけに、地元の自然環境の再生に向けて、私たちが出来ることを考えてみたいものです。



平成17年11月の道頓堀川浄化活動より  
（汐見橋付近から大黒橋にかけて）

## 大阪市漁業協同組合

大阪市此花区常吉 2の10の12

TEL 06・6462・5912

掲載の記事・写真・イラスト等の全てのコンテンツ無断複写、転載を禁じます。

（株）ファッションビジネス・御堂筋新聞